落葉山城（湯山城）（神戸市北区有馬町）（妙見寺）

落葉山城は、別名有馬城とも呼ばれ、築城者は定かではないが南北朝時代に築かれたと考えられ、南朝方の湯山左衛門三郎が居城したと文献にある。

戦国時代には、細川氏の重臣であった三好之長の子政長が、落葉山城を拠点に播磨・丹波へと進出しようとした。

天文８年、三木城主別所家直が落葉山城を攻め、政長は河内国へと敗走した。　その後落葉山城は、三田城主有馬村秀の支配下となり、天正７年に有馬加賀守が守る落葉山城を織田信忠が攻め落城した。

(お城の旅日記)による

有馬城は日本最古の温泉有馬温泉を見下ろす落葉山にあり、落葉山城、湯山城とも呼ばれた。南北朝の頃に築かれたといわれ、戦国時代には細川晴元の側近の三好政長がこの城を有していた。

天文８年（1539）閏６月に三木城主の別所村治（就治）が有馬城を夜討ちし、政長は敗れて河内に敗走したといわれている。（湯山合戦）

この天文８年は父を政長に殺害された三好長慶が政長に奪われた河内十七箇所の代官職を求めて兵を率いて上洛、閏６月 17 日晴元は京都を出て高雄に移った。晴元の命で上洛した政長と長慶の和談は決裂し、７月 14 日妙心寺付近で両者は小競り合いを演じている。７月 28 日将軍足利義晴と近江守護の六角定頼の調停で和睦している。

湯山合戦は村治が長慶に呼応して出兵したのか、政長の留守を衝いた単独出兵なのかはわからないが、その後、有馬城は三田城の有馬村秀が支配した。

永禄元年（1558）東隣の船坂の大屋四郎兵衛が山争いに事よせ攻め寄せたが村秀に返り討ちにされている。

天正２年（1574）荒木村重が摂津国主となると村秀の子国秀は村重に従い、村重の妻の妹を娶るが翌年村重に疑われた国秀は有岡城に呼び出されて自害し、有馬氏の嫡流は絶えた。

その村重も織田を裏切り、有馬城には一族の有馬加賀守が入っていたが、天正７年（1579）織田信忠が攻略し、仙石秀久が湯山奉行として有馬に入り、有馬城は廃城となった。

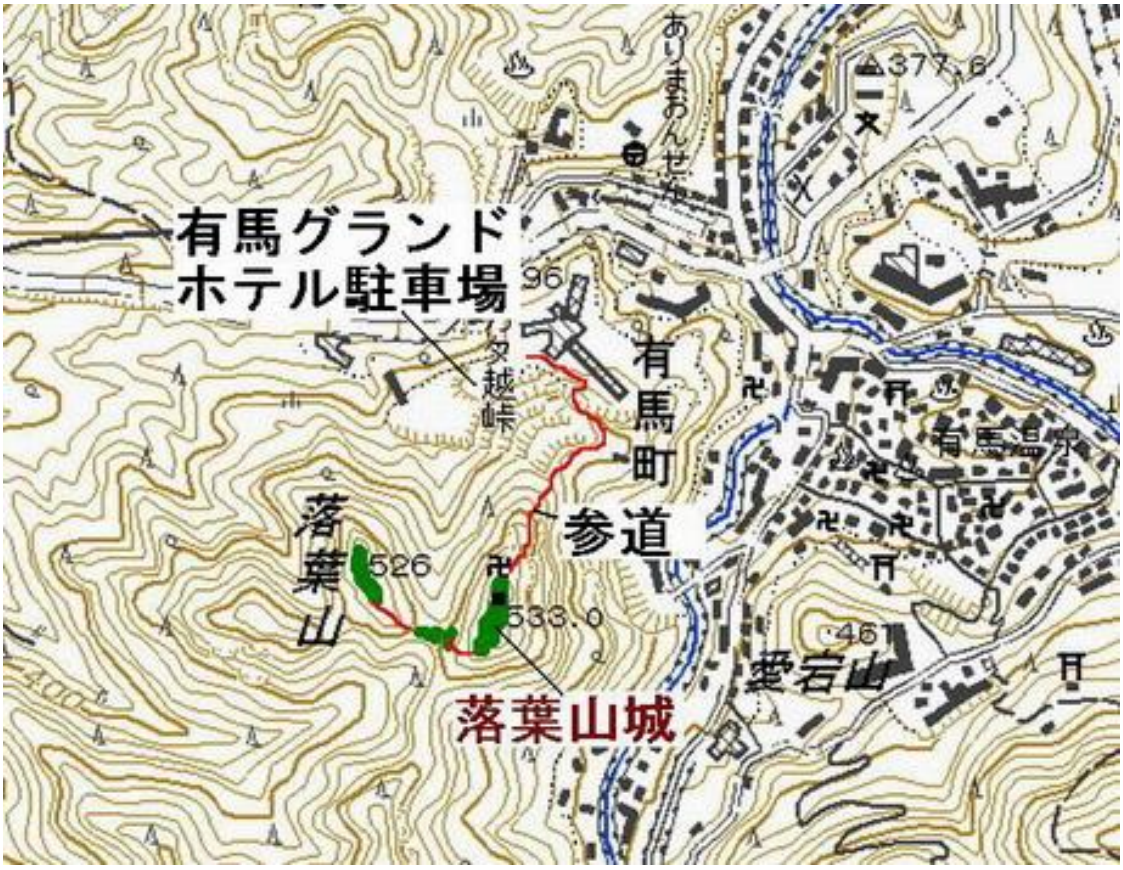
（斎藤摂津守城郭訪問記）

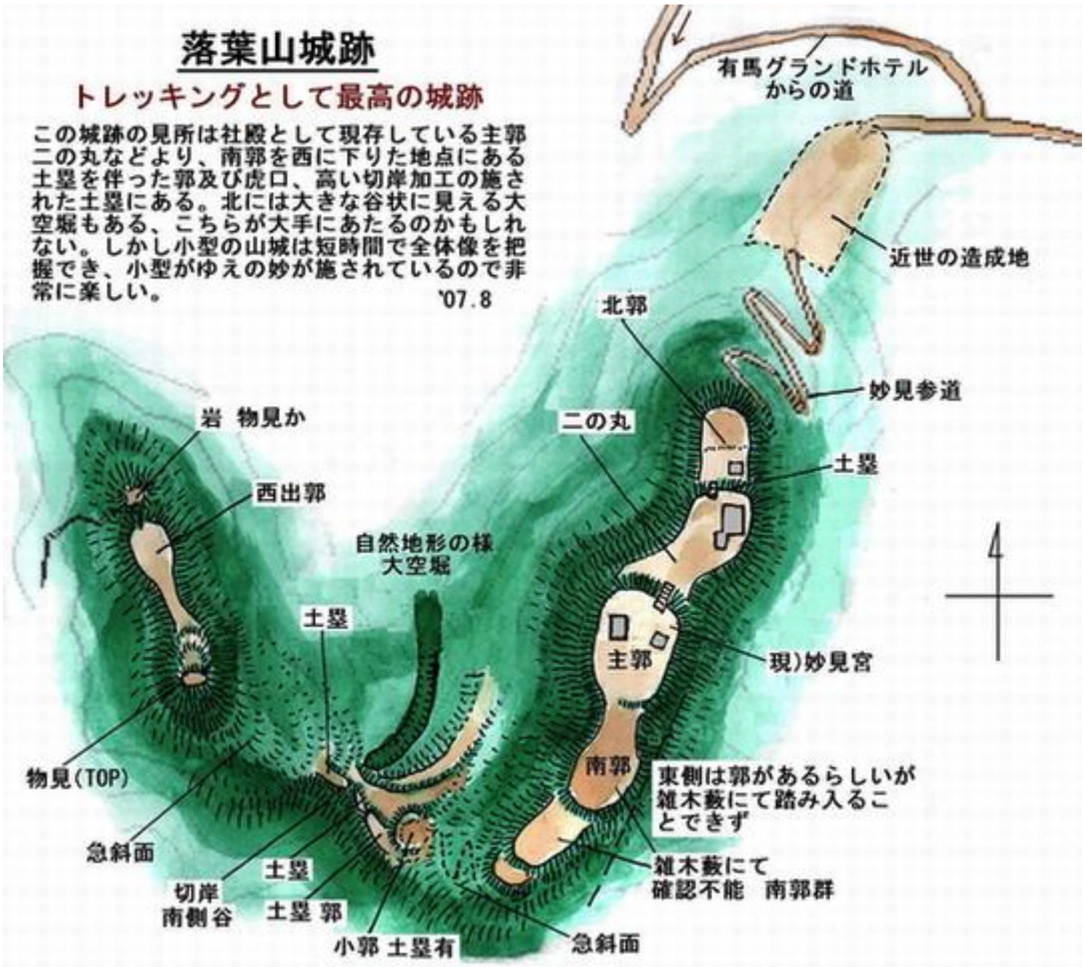
兵庫県神戸市北区有馬町にあって有馬温泉群の西側、有馬温泉駅からは南側に聳える城山（標高５２６ｍ）の山上が城跡、現在山上郭跡には妙見寺が建っており麓バスターミナル側からは参拝道も設置されている、有馬氏の居城と伝わるが三木合戦の際には別所氏側に付き落城した模様。

城跡へ車で向うなら有馬温泉駅のすぐ南側の丘陵上にある有馬グランドホテルを目指せば分かり易い、個人的には車は広大なホテル駐車場片隅に無断で止めさせてもらったが（奨励は出来ない）、後はルート図の如く敷地内南奥から山に向う道があるのでそれを利用すれば最短で本来の妙見参拝道に合流出来る。

現状（八月）城跡は夏季ともあって、本来の郭の転用と見受けられる北郭から主郭にあたる本殿までは形態の分かり易い良い状態にあるが、南側郭群あるい主郭東側斜面は一面雑木藪と化しており、とても中まで踏み入れる状態にはない。しかしこの城跡における見所は西側を降りた谷状地形周辺
であり、ここでは土塁、小郭跡、虎口跡、大空堀（自然地形かも？）などの後世人の手が加わっていない遺構を眼にする事が出来る、更に西側斜面を上れば出郭も備わっているので、小規模に感じられる城跡ではあるが案外山城の醍醐味は味わう事が出来る。

(山城賛歌)による


有馬グランドホテル駐車場
96
ありまおんせん
377.6
有馬町
有馬温泉
参道
落葉山
526
533.0
461
愛宕山
落葉山城



落葉山城跡

トレッキングとして最高の城跡

この城跡の見所は社殿として現存している主郭二の丸などより、南郭を西に下りた地点にある土塁を伴った郭及び虎口、高い切岸加工の施された土塁にある。北には大きな谷状に見える大空堀もある、こちらが大手にあたるのかもしれない。しかし小型の山城は短時間で全体像を把握でき、小型がゆえの妙が施されているので非常に楽しい。

'07.8

有馬グランドホテル
からの道
近世の造成地
北郭
妙見参道
二の丸
土塁
岩 物見か
西出郭
自然地形の様
大空堀
土塁
主郭
現)妙見宮
南郭
東側は郭があるらしいが
雑木藪にて踏み入ること
とできず
物見(TOP)
急斜面
土塁
切岸
南側谷
土塁 郭
小郭 土塁有
雑木藪にて
確認不能 南郭群
急斜面